

第416回地震調査委員 会資料

東北大学・京都大学・九州大学

気象庁一元化震源カタログを用いて、Double-Difference トモグラフィ法 [Zhang and Thurber, 2003, 2006] により、2025年2月ごろから群発地震活動が発生した山口県北部地域の地震波速度構造を求めた。活発化した地震活動域の周辺には高い V_p/V_s ・低い V_s 領域が確認できる。高い V_p/V_s ・低い V_s 領域の成因として流体が挙げられ、この地震活動と流体との関わりが示唆される。

（文責：岡田知己）

山口県北部の2025年深部群発地震震源域周辺の地震波速度構造・地震活動

(第415回地震調査委員会, 東北大・京大・九州大)

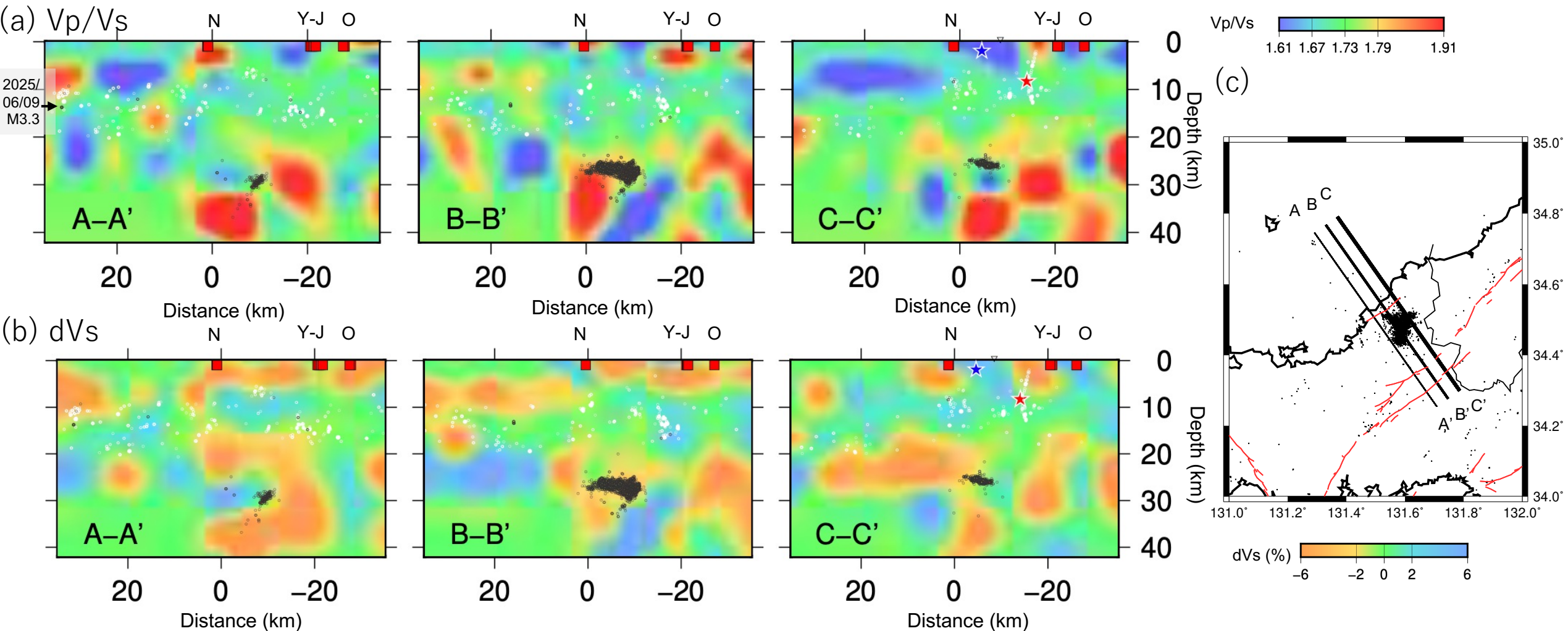


図1. (a) V_p/V_s の鉛直断面図。白は2000.10.1から2025.1.31まで、黒は2025.2.1から2025.7.4までの震源を示す。C-C'の赤星、青星はそれぞれ、1997/06/25のMj6.6地震、1941/04/06のMj6.2地震を気象庁震源より示す。赤四角は中国地域の評価対象活断層トレースを示す。Y-Jは弥栄一地福断層、Oは大原湖断層。Nは奈古断層。

(b) dV_s の鉛直断面図。

(c) A-A', B-B', C-C'の断面位置を示す。黒点は2025.2.1から2025.7.4までの震源を示す。赤線は中国地域の評価対象活断層トレースを示す。